

広報 たなべ

ともに歩こう。次の1000年へ。

2

2026

No.249



特集

地元の 暮らしを支える 公共交通

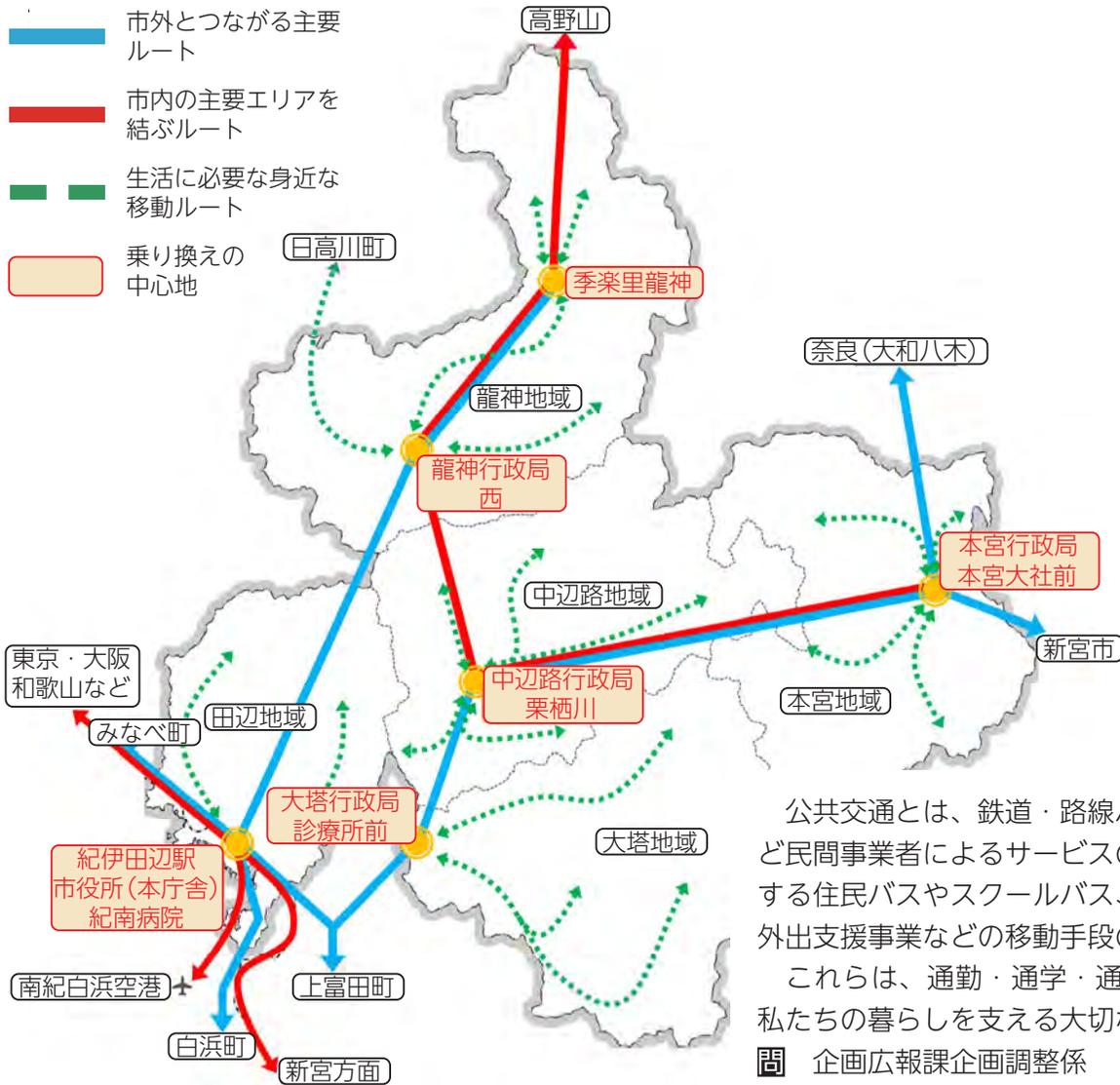
日常生活や観光客の移動を支える公共交通。これからも地域の暮らしを支える大切な移動手段を守り、未来へつないでいくために、私たちができることは何なのでしょう。

INDEX

紀州石神田辺梅林 / 2026 観燈祭 / 令和8年3月1日から運用が始まります 林野火
災警報・林野火災注意報 / たなべ住人十彩「海外の文化を感じられる場所に」^{またに}前谷
帆乃果さん（中辺路町栗栖川） / たなべすてき写真館「わたしが好きな”冬の”たなべ」

市内の

公共交通



公共交通とは、鉄道・路線バス・タクシーなど民間事業者によるサービスのほか、市が運行する住民バスやスクールバス、診療所送迎事業、外出支援事業などの移手段のことで、

これらは、通勤・通学・通院・買い物など、私たちの暮らしを支える大切な存在です。

問 企画広報課企画調整係

☎ 0739 (26) 9963



主にこんな時に利用されています



通学に利用
しています

買い物や病
院に行きま
すね



車を運転で
きないとき
に使うよ



参考：令和5年実施
地域公共交通計画策定に関する市民アンケート

主な公共交通の種類



鉄道

広い範囲の移動に便利で、一度に多くの人を運べる大量輸送に優れています。



路線バス

市内や近くの地域を細かく結んでくれる移手段です。鉄道や市役所・病院など、日常でよく使う場所へのアクセスを助けてくれます。



タクシー

行きたい場所まで直接連れて行ってくれる、柔軟な移手段です。時間帯や移動の目的に合わせて、必要なときに利用できます。



住民バス (コミュニティバス)

路線バスや鉄道が通っていない、または路線や運行本数が少ない地域で、買い物や通院など、暮らしに寄り添った移動を助けてくれます。

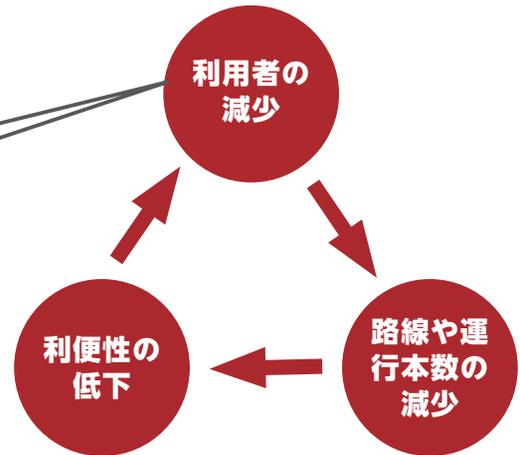
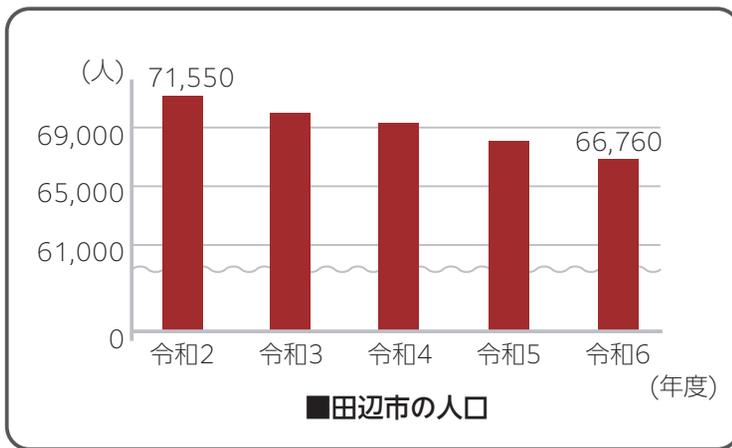


公共交通の深刻な課題

■利用者の減少

人口減少などの影響により公共交通の利用者は年々減少しています。利用者が減ることによって、路線の縮小や運行本数の減少が進むなど、公共交通が利用しにくくなり、利用者がさらに減るといった悪循環が起きます。

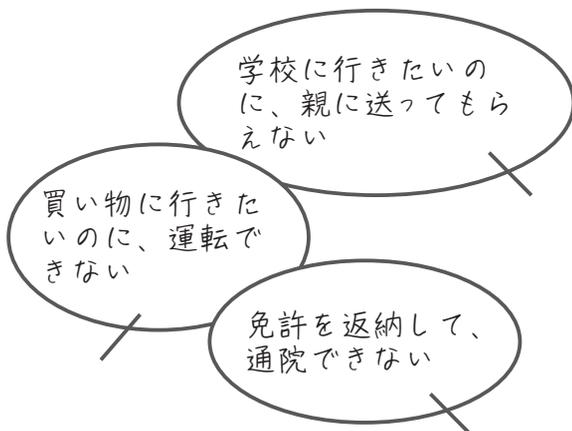
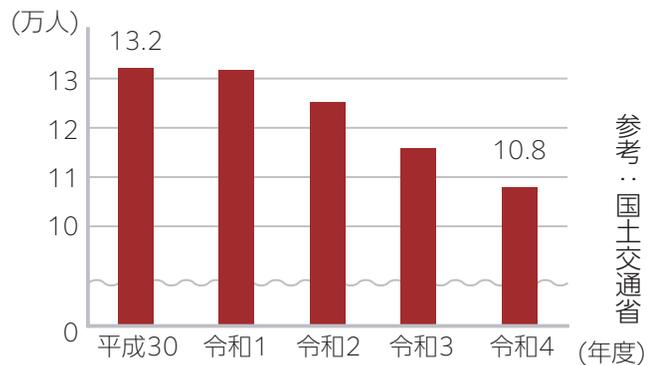
こうした状況が繰り返されることで、将来的には地域の移動を支える公共交通そのものを維持することが難しくなるかもしれません。



■深刻な運転手不足

交通事業者では、運転手不足が深刻化しており、公共交通の維持が大きな課題です。

そのような中でも、交通事業者は、運転手の確保に努めながら、皆さんの移動手段を維持するために、取り組んでいます。



いつか必要になるかも

現在は自家用車などで移動することが多く、電車やバス、タクシーなどを利用する機会がない方も、利用する場面が訪れるかもしれません。

普段このような移動手段を利用しない方でも、行先に応じて利用してみませんか。

地域の暮らしを支える公共交通を、みんなで守り、未来へつないでいきましょう。

公共交通を

支える人々の思い

市内の公共交通のうち、路線バスとタクシーの運転手にお話を伺いました。

路線バス

路線バスは、自家用車を持たない人にとって欠かせない存在で、誰もが安心して利用できる環境づくりが進められています。

市内の交通事業者は、車内の段差を減らし、車椅子に座ったままでの乗車に配慮したユニバーサルデザイン車両の導入や、各交通との連携を図るためのダイヤ調整など、利便性向上に取り組んでいます。



▲車椅子のまま乗車できるスペースがあります

運転手の魅力を知ってほしい



バス運転手
こしば だいち 小芝 大知さん

元々車の運転が好きで、路線バスを運転できる大型一種免許は持っていました。ある日、大きなバスが交差点をきれいに左折する様子を見てかっこいいと思い、思い切つてこの世界に飛び込みました。日々心掛けていることは、事故を起こさないことです。これには、車内での事故も含みます。時間に追われる中でも、必ず乗客の皆さんが座るか、つり革を持つのを確認してから出発します。

バスの運転手の魅力は、乗客の皆さんとの距離が近いところだと思います。直接感謝の言葉をいただきました。元々車の運転が好きで、路線バスを運転できる大型一種免許は持っていました。ある日、大きなバスが交差点をきれいに左折する様子を見てかっこいいと思い、思い切つてこの世界に飛び込みました。日々心掛けていることは、事故を起こさないことです。これには、車内での事故も含みます。時間に追われる中でも、必ず乗客の皆さんが座るか、つり革を持つのを確認してから出発します。

人々の暮らしをバスで支えたい



バス運転手
なかしま ちか 中島 智佳さん

「運転手不足」「廃線」という言葉をニュースで見ても、なんとか食い止めたいと思いました。マニュアル車の免許を持っていませんでしたが、思い切つて会社に問い合わせたことで、採用していただけました。入社後に、大型二種の免許を取得し、上司に付きつ切りで運転を指導していただきました。

最初は、緊張して全身ガチガチでしたが、運転に十分気を付けながら、今ではとても楽しんでいきます。長距離を乗られた方が、「いつも酔うんやけど、今日は大丈夫や」と声を掛けてくれた時は今まで一番うれしかったですね。私は、バスの運転を社会貢献だと思っています。特に交通弱者と言われる方にとってバスは必要な乗り物で、そういう方の暮らしを支えることができるのが最大の魅力です。「バス運転手」は、男性の印象が強いかもしれませんが、弊社では5人の女性が運転手として働いています。勤務時間なども相談できる場合があるので、運転手に興味のある方は気軽に一步を踏み出してほしいです。そして何より、地域の交通を守り続けていくために、皆様のご乗車をお待ちしています。

タクシー

タクシーは、目的に合わせて柔軟に利用できる交通手段として、市民や観光客の移動を支えています。車椅子に対応した車両を導入するなど、誰もが利用しやすい環境づくりを進めています。

また、持続可能な運行に向けて、二酸化炭素の排出量が少ない車両を導入するなど、グリーンイノベーションを進める取組も広がっています。



▲電気自動車の導入も広がっています



車椅子を載せることができる車両▶

「ありがとう」の言葉を力に

タクシー運転手
谷口 浩志さん



障害者施設で勤めていたが、元々車の運転が好きで、お年寄りや障害者に寄り添い、役に立てればという気持ちでこの仕事に就きました。

タクシーの利用者には、高齢や障害などで介助が必要な方が多く、前職の経験を生かし、時間が掛かっても丁寧に対応するように心掛けています。一番記憶に残っているのは、全盲の方に乗せた時のことです。まず自分の体に触れてもらって安心していただき、動きのペースを合わせ、乗車をサポートしました。

利用者を目的地まで送り届けた時にいただく、「ありがとう、また呼びます」のひと言に、日々救われています。その言葉をいただけることが、この仕事のやりがいです。

現在、タクシー業界も人材が不足しています。免許取得の補助を行い、色々な種類の車を用意している場合もあります。初心者でももちろん大丈夫です。

私を含め運転手は、親切・丁寧をモットーに、移動手段がない方の行動範囲を広げるため頑張っていますので、気軽にタクシーを利用していただきたいと思います。

交通の利便性が悪くなった地域を助ける

住民バス

行政局管内で路線バスが廃止されるなどして、交通の利便性が悪くなった地域では、住民の皆さんの移動手段確保と日常生活を維持するため、市が民間事業者に委託し、住民バスを運行しています。

運行形態は、あらかじめ路線とダイヤを定めて運行する定時定路線型と、路線やダイヤを定めず、利用者の需要に応じて運行するデマンド型があります。



▲車両は数種類あり、8～14人の乗車が可能です

「他人事」 を 「自分事」へ

NPO 法人

ええとこねっと龍神村

たけうち まさかず
竹内 雅一さん

まつもと いずみ
松本 泉さん

おがわ まさのり
小川 雅則さん

実証運行の開始まで

昨年10月から開始した実証運行は、前日予約制で、お客さんのもとに向かい、龍神地域内の施設やバス停等に送り届けます。

先進地の視察など実施に向けた研究を行い、また新型コロナウイルスの影響により、運行が先送りになるなど長い年月を要しましたが、ようやく実証運行を開

始することができ、安心していきます。

地域の高齢化

龍神地域の少子高齢化は急速に進んでいます。地域では、世帯で一人だけ車の免許を持つている場合が多く、免許の保有者が亡くなったり、施設に入所されると、残された人の行動範囲が狭まり、また自力での移動は、加齢によって年々困難にな



「日頃から親族などに送迎してもらおうと、送迎代の支払い等、どうしても気を使ってしまうと思います。そういう方にこそ、気軽に利用してもらいたい」と竹内さんは言います。

地元愛が支える交通



るなど、交通手段の確保という課題が顕著になっていました。

傍観者ではいけない

NPO法人を立ち上げた当初は、こうした課題に対して傍観者になっていました。

しかし、これは私たちが今後、この地域で暮らしていくにあたって自分たちにも降りかかる問題。他人事ではなく自分事として、地域の実情に合った移動手段を確保しないといけないとの思いで運行への歩みを始めました。

安心感が利用の一步に

昨年10月から3ヶ月間で64件、延べ103人の利用がありました。ドライバー



将来的には、運転手の確保が課題になると考えている松本さん。「実証運行の中では、運転手の手取り面等で課題もありますが、利用者の方からも喜ばれるこのサービスを維持するために何ができるかを考えていきたいです。」



「運転手とすぐわかることで、安心感を」と専用のウェアを作成。



企画広報課

みぞばた
溝端 主査

皆さんとともに守り、 地域を支える存在に

市の公共交通は、私たちの移動手段として欠かせない存在です。

しかし近年、バスやタクシーの運転手の高齢化や担い手不足、さらに人口減少による利用者数の減少など、厳しい課題に直面しており、やむを得ず路線や便数の見直しを進めている状況です。

このような中でも、誰もが安心して利用できる効率的・効果的な交通を維持するためには、行政だけでなく、交通事業者や市民の皆さんと一体となった取組が不可欠です。

また、住民の皆さんが主体となって始めた移動手段についても、市として支援を行い、地域の実情に合った持続可能な移動手段の確保に努めてまいります。

市では、地域公共交通計画に基づき、市民の皆さんの意見を伺いながら交通事業者と連携し、未来につながる交通網の確保に取り組んでいます。

公共交通は、通勤・通学や買い物、観光など、私たちの生活を支える重要な存在です。ぜひ日常生活でも積極的にご利用いただき、交通の維持にご協力ください。



「利用者の方の多くは、ドライバーと同地区にお住まいの方です。必要とされる方にサービスが届くよう、多くの地区の皆さんにご利用いただける、バランスの取れた運用ができるよう検討していきます」と小川さん。

始めました。そのことを知っていたら、安心して利用させていただきたいです。

もっと必要とする方に

3ヶ月間の運行を通じて、一度利用された方に何度も利用いただいています。一方で、本当に困っている方々

にこのサービスが届いているのだろうかいつも考えています。地域の皆さんに必要とされる運行であり続けるためにも、関係機関とも連携しながら、持続できる取組にしていきたいです。

人口減少等による公共交通の利用者数の減少は、路線の縮小や本数の減少につながっています。一方で、利用者にとっては、移動手段が失われ不便になってしまいます。

こうした状況を踏まえ、龍神地域では、住民が主体となって設立した団体が、地域の移動手段の確保に取り組んでおり、その活動についてお話を伺いました。

地域にとっての公共交通を皆さんと一緒に考え、策定しました 地域公共交通計画



地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにし、その実現に向けた全体的な方向性を示す計画として定めるものです。

市では、交通事業者や地域の皆さんと協議を重ね、令和7年3月に計画を策定しました。

公共交通の各種課題に対して、地域住民・交通事業者・行政が一体となり、利用しやすくかつ持続可能な公共交通の実現に向け、これからも取組を進めていきます。



◀詳しくはこちら